

森里川海がつながって

「小田原箱根の観光ビジョン（16年5月発表）」を受けて、昨年16年の11月に発表しました小田原観光の再構築プランの提言である「平成の城下町・宿場町構想」は、今、その実現に向けて、行政（神奈川県、小田原市）、専門家（建築家の前田伸治氏、東洋文化研究家のアレックス・カー氏）にも加わっていただき、研究会がスタートしました。5つの分科会に分かれ、具体的な施策について、熱心な議論と一部では既に試験的な取り組みが始まっています。

そのひとつである「海のなりわいづくり」分科会（田村洋一座長）では、去る10月15日に、江の島マリナで大きなクルーザーにお客様、関係者合せ100名ほどを乗せて、相模湾から早川漁港へ入港というユニークなイベントをしました。横浜でクルーズ事業を展開する企業さんの力を借り、県からの援助と地元、小田原漁業協同組合、小田原魚市場の協力で実現したものです。私も漁協の高橋組合長さんと一緒に乗船しました。当日は生憎の雨。景色はあまり見えませんが、揺れることもなくスムーズな航海でした。

新幹線やロマンスカー、東名高速、小田原厚木道路、西湘バイパスと陸上交通の便のいい小田原、箱根であります。これからの世界的なリゾートとしては、海のルート、海から小田原、箱根へ入ってくるルートはありえないかという発想からの取り組みです。世界のお金持ちの究極の道楽は船と言われています。大きなクルーザーやヨットが集まる小田原も素敵かも知れません。現在、あまり海の香りのしない小田原のまちですが、もっと海をアピールしたらと思います。もちろん、早川港は漁港ですから、漁船以外は入れませんし、沖の定置網や生け簀に影響があってはなりません。安全第一です。というわけでハードルは相当高いと思いますが、広く議論し、検討し、努力してみる価値はあるのではないのでしょうか？

さて、雨模様の中、大磯、二宮沖を過ぎ、まず小さく天守閣が、そして、小田原のまちが見えてきます。「小田原のまちは海に張り付いている！」というのが私の印象でした。陸にいとそんな感じはしませんが、海から見ると、小田原のまちは、まさに相模湾と箱根、丹沢に挟まれていると。真鶴半島の先端に魚つき保安林として江戸時代から守られてきた森があります。海に架かるように生い茂る樹木の下の海には魚が集まる。豊かな森に豊かな漁場を育むということだそうです。そんなことを思い出していると合点したこと。「箱根や丹沢の森は相模湾の魚つき林なんだ！」と。森と里と川と海がつながって、いのちが循環し、豊かな環境が保たれ、その狭間に人がへばりつくように私たち人のなりわいがあるということを実感しました。この小田原、箱根はそれがコンパクトに存在し、実際に一望できる素晴らしいところだと気がつきます。より多くの人たち、世界中からの観光客のみならず、ここで暮らす私たち、とくに子供たちにぜひ見て体感して欲しいと強く思いました。また、新たな観光の課題が見つかりました。そして、私たちが次代に何を残すべきかということも。

会頭 鈴木悌介